令和8年度　博士後期課程進学に関する博士後期課程学生アンケート

主催・集計：新潟大学自然科学研究科附属教育研究高度化センター

対象：新潟大学大学院博士後期課程のうち、主に自然科学研究科所属の学生。その他、ご協力いただいた博士後期課程学生。

自然科学研究科博士後期課程の学生数：213名

学年を選択してください。

全体 (n=38)	人数	%
D1	20	52.63
D2	7	18.42
D3	11	28.95

日本人	n=	31
D1	20	15.00
D2	7	6.00
D3	11	10.00

留学生	n=	7
D1	5	71.43
D2	1	14.29
D3	1	14.29

出身学部を選択してください。

全体 (n=38)	人数	%
理学部	12	31.58
工学部	15	39.47
農学部	6	15.79
創生学部	0	0.00
無回答	0	0.00
その他	5	13.16

日本人	n=	31
理学部	11	35.48
工学部	13	41.94
農学部	3	9.68
創生学部	0	0.00
無回答	0	0.00
その他	4	12.90

留学生	n=	7
理学部	1	14.29
工学部	2	28.57
農学部	3	42.86
創生学部	0	0.00
無回答	0	0.00
その他	1	14.29

その他：教育学部、法学部、Faculty of Fisheries、愛媛大学大学院農学研究科

留学生ですか。

留学生である	7	18.42
留学生ではない	31	81.58

博士後期課程在学中の生活費をどのように賄っていますか。（複数選択可）

全体 (n=38)	人数	%
JST次世代	14	36.84
TA、RA、チューター	13	34.21
その他	9	23.68
JASSO奨学金	8	21.05
アルバイト（TA、RA、チューター以外）	8	21.05
学振DC1、DC2	5	13.16
親からの仕送り	5	13.16
大学の教職員（特任助手、特任助教など）	4	10.53
非常勤講師	4	10.53
民間企業の奨学金	4	10.53

日本人	n=	31
JST次世代	13	41.94
TA、RA、チューター	10	32.26
JASSO奨学金	8	25.81
その他 (給与・自己資金)	7	22.58
アルバイト（TA、RA、チューター以外）	6	19.35
学振DC1、DC2	5	16.13
親からの仕送り	5	16.13
大学の教職員（特任助手、特任助教など）	4	12.90
非常勤講師	4	12.90
民間企業の奨学金	3	9.68

留学生	n=	7
TA、RA、チューター	3	42.86
アルバイト（TA、RA、チューター以外）	2	28.57
その他 (MEXT奨学金)	2	28.57
JST次世代	1	14.29
民間企業の奨学金	1	14.29
学振DC1、DC2	0	0.00
大学の教職員（特任助手、特任助教など）	0	0.00
非常勤講師	0	0.00
JASSO奨学金	0	0.00
親からの仕送り	0	0.00

【コメント】
日本人学生は、奨学金・フェローシップ（JST、JASSO、学振、民間企業）のいずれかを挙げた人、仕事による収入（TA等、アルバイト、教職員、非常勤講師、給与）を挙げた人が多い。親からの仕送りまたは自己資金を挙げた人は7名 (これらは掛け持ちがあるため、人数は重複する)。よく見られた組み合わせは、JST次世代＋TA・RA・チューターが5名、JASSO奨学金＋TA・RA・チューターが4名。月額20万円程度の制度に採択されていない学生は特に収入元が複数ある場合が多く、非常勤講師やアルバイトなど、研究と直接関係がないと思われる活動に時間を割く学生も多い。社会人博士は数名おり、給与や自己資金、貯金を挙げていた。
留学生は、MEXT Scholarship(文部科学省が外国人の優秀な留学生を招へいするために支給する返済不要の国費奨学金制度。月額約117,000円～242,000円)を支給されている学生は併用なし。それ以外は複数の収入元あり。

挙げた収入元の数	n
1項目	13
2項目	9
3項目	4
4項目	4
5項目	1

博士後期課程への進学を決めた理由を教えてください。（複数選択可）

研究を続けたかった、より専門性を高めたかった	30	78.95
大学・公的研究機関などアカデミアで研究者・教員を目指している	13	34.21
企業の研究・開発職を目指している	10	26.32
指導教員に勧められた	5	13.16
就職を急がなかった	4	10.53
その他	4	10.53
海外の大学・研究機関・企業で研究・仕事をしたいと考えている	3	7.89

【コメント】トップの「研究を続けたかった、より専門性を高めたかった」を選ばなかった人は、「企業の研究・開発職志望」「アカデミア志望」「社会人博士」「指導教員に勧められた」などを選択。「その他」の理由は、自己啓発、社会人博士、実験が好きだからなど。

博士後期課程へ進学する前、以下の項目についてどの程度不安を感じていましたか。

現在の知識・経験で博士後期課程に進学できるか

とても不安だった	14	36.84
少し不安だった	16	42.11
不安ではなかった	8	21.05

英語力

とても不安だった	25	65.79
少し不安だった	7	18.42
不安ではなかった	6	15.79

周囲に博士学生が少ない、相談できる人がいない

とても不安だった	6	15.79
少し不安だった	14	36.84
不安ではなかった	18	47.37

毎日研究を続けられるか、モチベーションを保てるか

とても不安だった	11	28.95
少し不安だった	7	18.42
不安ではなかった	20	52.63

研究とプライベート（趣味・休養・家事など）の両立

とても不安だった	7	18.42
少し不安だった	12	31.58
不安ではなかった	19	50.00

経済面（生活費・学費など）

とても不安だった	17	44.74
少し不安だった	14	36.84
不安ではなかった	7	18.42

標準修業年限で研究成果を出せるか（論文執筆・学位取得）

とても不安だった	16	42.11
少し不安だった	13	34.21
不安ではなかった	9	23.68

研究とライフプラン（結婚・出産など）の両立

とても不安だった	9	23.68
少し不安だった	14	36.84
不安ではなかった	15	39.47

就職への不安

とても不安だった	6	15.79
少し不安だった	17	44.74
不安ではなかった	15	39.47

【コメント】英語力は、約84%が何らかの不安を感じ、約66%が「とても不安」と回答しており、最も強い不安。経済面も約82%が不安を感じており、「とても不安」は約45%。研究成果や修了への不安、進学時点の知識・経験への不安も約77～79%に上る。進学後の研究を続けられるかだけでなく、進学時点での準備や修了可能性への不安も大きかったと考えられる。
就職への不安は約61%に見られるが、「とても不安」は約16%で、多くは「少し不安」。研究とプライベートの両立や、周囲に相談相手がいないことも半数前後が不安を感じている。一方、研究を続ける意欲については、約53%が「不安ではなかった」と回答。

実際に進学してみて、どのような能力が特に成長したと感じますか。（3つまで選択）

専門知識・専門性	24	63.16
論理的思考力	22	57.89
課題発見・解決能力	18	47.37
論文執筆能力	12	31.58
データ解析能力	11	28.95
主体性・自立性	10	26.32
コミュニケーション能力	7	18.42
英語による読解・発信能力	4	10.53
リーダーシップ	3	7.89
その他	3	7.89

博士後期課程へ進学する前に抱いていた不安について、実際に進学してみてどう変わりましたか。

不安が大きく軽減した	6	15.79
不安が少し軽減した	10	26.32
あまり変わらなかった	14	36.84
不安が少し大きくなった	5	13.16
不安が大きくなった	3	7.89

問7でそのように回答した理由を教えてください。（自由記述）

【コメント】
自由記述で挙がった要素は以下の通り。
研究成果や修了への見通し、実力への自信（6名）
経済面・奨学金（5名）
履修制度や仕事との両立（3名）
英語での発表・コミュニケーション（1名）
周囲との比較、相談相手やコミュニティ（2名が比較への不安に言及）

進学前に不安があった項目	該当者数	軽減	変化なし	増加
知識・経験で進学できるか	30	14 （46.7%）	10 （33.3%）	6 （20.0%）
研究成果を出せるか	29	13 （44.8%）	9 （31.0%）	7 （24.1%）
英語力	32	13 （40.6%）	12 （37.5%）	7 （21.9%）
経済面	31	13 （41.9%）	11 （35.5%）	7 （22.6%）
毎日研究を続けられるか	18	9 （50.0%）	6 （33.3%）	3 （16.7%）

博士後期課程へ進学して良かったと思うことを教えてください。（複数選択可）

日々の研究による知識・経験が増えた	29	76.32
学会発表・国際交流の機会が増えた、論文執筆を経験できた	21	55.26
研究に専念できている	19	50.00
人脈が広がった	15	39.47
研究費申請への挑戦など、研究者として自立するためのスキルを育てられた	12	31.58
コミュニケーション能力が向上した	9	23.68
英語力が向上した	5	13.16
その他	5	13.16

博士後期課程へ進学して、大変だったこと・苦労したことを教えてください。（複数選択可）

研究の進め方・成果が出ないこと	19	50.00
論文執筆	19	50.00
経済面（生活面、学費など）	17	44.74
研究費や奨学金などの申請書・報告書の作成	12	31.58
精神的なストレスやモチベーションの維持	12	31.58
研究時間の確保	11	28.95
同年代の友人と比べて社会進出が遅れていると感じること	11	28.95
英語力	10	26.32
後輩指導や、機器メンテナンス、指導教員から依頼された業務など、研究室運営に関する業務	10	26.32
研究とプライベート（趣味・休養・家事など）の両立	10	26.32
就職・進路への不安	10	26.32
研究とライフプラン（結婚・出産など）の両立	7	18.42
学会発表・プレゼンテーション	4	10.53
その他	3	7.89
親や周囲の理解が得られないこと	0	0.00

以下の項目について、進学前に抱いていた不安や予想は、実際にはどうでしたか。

日々の研究活動

ほぼ予想通り	21	55.26
思ったほどではなかった	2	5.26
予想より大変だった	15	39.47

英語力

ほぼ予想通り	24	63.16
思ったほどではなかった	5	13.16
予想より大変だった	9	23.68

就職

ほぼ予想通り	21	55.26
思ったほどではなかった	9	23.68
予想より大変だった	8	21.05

研究成果を出す（論文執筆、学位取得）

ほぼ予想通り	24	63.16
思ったほどではなかった	2	5.26
予想より大変だった	12	31.58

経済面

ほぼ予想通り	20	52.63
思ったほどではなかった	10	26.32
予想より大変だった	8	21.05

【コメント】
「進学後に予想より大変だった」と答えた割合は、日々の研究活動で最も高く、次いで研究成果、英語力。
日々の研究活動は、進学後に想定以上の大変さを感じやすい項目。進学前に不安を感じていた人は約47%だったが、進学後に「予想より大変だった」と答えた人は約39%。大半は予想の範囲内だった一方、5項目の中では想定を超える負担が最も多くいる。
研究成果への不安は、進学後も一定数で現実の負担に。進学前には約76%が不安を感じ、進学後に約32%が「予想より大変」と回答。一方、約63%は「ほぼ予想通り」。多くは想定していた課題に直面しつつ、約3人に1人は想定以上の難しさを経験した。
英語力と経済面は、進学前の不安が高かったものの、進学後に予想以上の困難を感じた割合は比較的低い。英語力では約84%が進学前に不安を感じたが、進学後に予想より大変だった人は約24%。経済面も、進学前の不安は約82%に対し、予想より大変だった人は約21%。経済面では約26%が「予想ほどではなかった」と回答。
就職についても、進学前に不安を感じた人は約61%いたが、進学後に予想より大変だった人は約21%で、約55%はほぼ予想通り、約24%は予想ほどではなかったと回答。

博士後期課程進学を検討している学生へ、具体的なアドバイスやメッセージがあればご記入ください。（自由記述・任意）

【コメント】
不安や行き詰まりを挑戦の一部と捉え、前向きに進学を考えてほしいという声があった。経済面では、支援制度や奨学金の条件・返済負担を事前に確認し、民間奨学金にも積極的に応募することが勧められている。また、就職後の進学も選択肢とし、収入や経験、研究の継続性、仕事との両立を踏まえて、自分に合った進学時期を考えることが提案されている。